

大阪大学医学部保健学科における現代 GP への取り組みの紹介

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻教授

荒木田美香子

大阪大学医学部保健学科における
現代GPの取り組みの紹介

大阪大学医学系研究科保健学専攻
荒木田美香子

1

現代GP (Good Practice)とは

- 各大学などでの教育改革の取組を促進する
- 学生教育の質の向上などの大学教育改革の取組を選定 ←学部教育対象

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

社会的要請の強い政策課題(地域活性化への貢献、知的財産関連教育など)に関するテーマ

特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

教育方法や教育課程の工夫改善など学生教育の質の向上への取組を更に発展させる取組

2

親と子のこころに支援できる専門職育成プログラム

テーマの選定理由

大阪大学医学部保健学科の特徴を活かす

- 大阪大学は「地域に生き世界に伸びる」大学をめざしていること
- 看護師・保健師・養護教諭・精神保健福祉士を育成する教育機関であること
- 大阪大学「こころの発達研究センター」「コミュニケーションデザインセンター」があること

3

「親と子のこころに支援できる専門職育成プログラム」での教育プログラム

- 基礎的段階(学部1年)
コミュニケーションのトレーニング
- 知識・技能の形成(学部2・3年)
「こころの発達と障害」を支援できる知識と技術の習得
保育実習・養護学校の見学
ペアレントトレーニングの理解
- 地域に役立つ力を育てる体験学習(学部3・4年)
臨地実習でコミュニケーション能力の強化
ペアレント・トレーニングの実践に参加

教育内容と成果の評価(18年から20年、毎年)

4

「親と子のこころに支援できる専門職育成プログラム」の概要

学部教育

知識・実践の向上
・専門教員の雇用
・国内外での研修・研究

社会貢献・地域連携
・地域、医療機関、家族会との連携
・公開講座などの開催

5

本プログラムで育成された専門職像

- 軽度発達障害に関する知識を持っている
- 軽度発達障害などの早期発見に貢献できる
- 軽度発達障害を持つ子どもと親の支援の方法がわかる
- 適切な連携先が分かる
- 障害を持たない親子の育児支援に、ペアレントトレーニングを応用できる

6